

(別 添)

◆ 事業者の名称、代表者の氏名及び事務所の所在地

事業者名 名古屋市  
代 表 者 名古屋市長 河村 たかし  
所 在 地 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

事業者名 名古屋港管理組合  
代 表 者 名古屋港管理組合管理者 名古屋市長 河村 たかし  
所 在 地 名古屋市港区港町1番11号

◆ 対象事業の名称及び種類

大江川下流部公有水面埋立て（公有水面の埋立て）

◆ 対象事業の実施予定地

名古屋市港区大江町及び昭和町地先から南区宝生町及び大同町地内まで

◆ 説明会の開催状況、経過及び概要

説明会は、事業者より事業概要及び環境影響評価準備書の概要を説明し、住民等からの質疑に対し回答しました。

1. 説明会の開催状況

日時及び場所

令和4年9月17日（土）午前10時～午前12時00分  
大江破碎工場敷地内 大江ホール

参加人数 33 名

事業者として出席した者の職名及び氏名

名古屋市緑政土木局河川部河川工務課 横井課長、阿部主査、勝美技師  
名古屋港管理組合 環境担当 岡本主幹、杉山主査  
事業推進課 定松課長補佐、佐藤係長  
日本工営都市空間株式会社 杉山課長、田中技術課長、富田主任  
他

2. 事業概要及び環境影響評価準備書の概要

事業者より、事業の概要及び環境影響評価準備書の概要について説明を行いました。

3. 質疑と回答の概要

(1) 工事計画の柴田学区への展開について

質問) 柴田学区の役員の人など、本日の説明会に來れない人への説明のために、配布資料を余分に頂戴したい。

回答) 対応する。

**(2) 最下流護岸の標高について**

質問) 最下流護岸の N.P. は 4.4m とのことだが、名古屋市から別途聞いている津波高さを踏まえると、N.P. =6m ぐらいは必要ではないか？

回答) 今回の埋立事業とは別に、大江川河口部に N.P. =6.0m の防潮壁を建設する計画である。また、住民に少しでも安心してもらえるよう、N.P. =5.0m のパラペットを整備している。

**(3) 柴田学区内を走行するルート 4 について**

質問) 小学校等の通学路があるルート 4 についてはなるべく使わないでほしい。港東橋の方から、一方通行規制を解除して進入するルートはできないのか。

回答) ルート 4 は施工上どうしても必要なルートであるが、できる限り工事車両の通行を抑制するとともに、どうしても通る場合は速度を抑制する等の対策をする。港東橋からのルートについては、今後、警察や地元住民と協議を行い決めていく予定である。

**(4) 大地震発生時の有害物質の流出について**

質問) 現状でアスファルトマットは破れて劣化しているところがある。今後、盛土を行うとしても、液状化して地表面に出てくることを心配している。

回答) 地震時の状況についてシミュレーションによる解析を行い、有害物質が流出しないよう、今回の埋立計画を考えている。なお、現状において、アスファルトマットの点検と、水質や底質の調査を定期的に行っており、汚染物質が漏洩していないことを確認している。

**(5) 工事に伴う悪臭、騒音、振動の発生について**

質問) 悪臭、騒音、振動の予測結果によると基準値は下回るとの説明であるが、現状と比較すると、多少は臭いや騒音は発生するという認識でよいのか。

回答) 工事に伴い建設機械の稼働や工事関係車両の走行があるが、工事による影響を低減させるような環境保全措置を考えていく。

**(6) 工事中の地下水汚染の確認について**

質問) 地下水調査結果を住民はどうやって知ることができるのか。

回答) 工事に行う事後調査の結果は、名古屋市の条例手続きに従い、事後調査結果中間報告書で公表することとなっている。

**(7) 盛土高の低減について**

質問) 環境保全措置として盛土高を低減したことは理解できるが、それにより、汚染土対策としての盛土の役割は確保できるのか？

回答) 盛土高の変更は、背後地の地盤変動の影響を抑えるために行うものであるが、変更後の盛土の効果についてはシミュレーションにより確認している。

**(8) 埋立てに使用する土について**

質問) 埋立てに使用する土について、リニアの残土や浚渫土を用いるのか？

回答) 使用する土は建設残土を考えている。発生と受入れのタイミングが合えば、リニア工事で発生する土を用いる可能性もある。ただし、土の性質については、土壌汚染対策法に適合した土を用いる計画である。また、今回の埋立てには、地震発生時に液状化する恐れのある浚渫土は用いない。

**( 9 ) 工事の開始時期について**

質問) 工事は最短でいつから開始するのか?

回答) 埋立に係る申請手続きが完了する令和 5 年度の末ごろを予定している。

**( 1 0 ) 事業に係る費用について**

質問) 事業に係る費用はどれくらいか。概算でもよいので教えてほしい。

回答) 現在検討中であり、正確に伝えることが難しいため、回答は控える。

**( 1 1 ) 埋立後の土地利用計画について**

質問) 埋立後の土地利用計画が具体化するのはいつごろか。また、地元住民の意見を聞いてもらえる機会はあるか。

回答) 具体化の時期は未定であるが、住民の声を聴きながら今後計画を策定していく。

**( 1 2 ) 有害物質を含む底質の処理について**

質問) 処理するヘドロの量と、エコチューブ袋から脱水過程で発生する水の汚染処理方法を教えてほしい。

回答) ヘドロの全量は現在の推定で 26 万 m<sup>3</sup> であるが、圧密沈下により体積が減少することから、掘り起こす量はかなり少なくなる。また、底質を入れる袋については有害物質を濾し取る機能があるとされているため、基本的に袋から出てくる水の中には汚染物質は含まれない。さらに、工事中に発生する水については有害物質処理施設で処理したうえ、放流する計画である。

**( 1 3 ) 開橋の撤去について**

質問) 昭和地区は道が狭く、追突などの交通事故が多い。開橋を撤去する計画があるか、教えてほしい。

回答) 今回の事業では開橋を撤去する計画はないが、昭和町の交通安全対策については道路関係部署に伝える。

**( 1 4 ) 現状の大江川緑地の安全性について**

質問) 現在の大江川緑地は埋立て後、かなり年数が経っているが、地震発生時に地下に埋まっている汚染物質はどうなるのか。

回答) 大江川緑地の地下に、過去、有害物質が堆積していたことは確認している。今回の計画と同様の埋立てによる対策を実施済みであり、地震発生時についても汚染土の噴出はないと考えている。

**( 1 5 ) 事業に係る費用負担について**

質問) 汚染土は過去に大手企業が排出したものであり、今回の事業に係る費用も、名古屋市の税金ではなく、大手企業に請求することはできないのか。

回答) アスファルトマットによる封じ込めについては原因企業からの負担金と国からの補助で実施したが、今回の事業目的は地震時の安全対策であり、行政が負担すべきものとする。

**(16) 環境保全措置の記載について**

質問) 環境保全措置について、「原則として」「…に努める」という表現があるが、こういった表現は実現性があいまいであるため、実施することを断言してほしい。

回答) 「努める」等の表現については、名古屋市緑政土木局の工事の発注仕様書の中での記載である。工事に際しては、現場代理人や監督員がチェックし、発注仕様書の内容を守らない業者があれば、適切に指導していく。

**(17) 大気質の環境目標値について**

質問) 建設機械の稼働に係る二酸化窒素の年平均値が 0.055ppm であり、名古屋市の環境目標値を上回っている。環境保全措置による低減を図るのではなく、保全措置を実施したうえで環境目標値を満足するという結果となるように示すべきである。工事車両等の環境保全措置に「原則として」「努める」という表現はやめていただきたい。

回答) 環境保全措置により影響の低減を図っていく計画であるが、実施の効果については事後調査結果報告書で示していく。「努める」等の表現については、今後検討する。

**(18) 埋立土の汚染の有無の確認について**

質問) 埋立土に用いるというリニアの建設残土は汚染されていることが知られている。埋立土の汚染の有無について、誰が、どのような頻度で、どこで行うかを明確に記載すべきである。

回答) リニアの建設残土の受け入れについて、工事のタイミングによって受け入れ量が変わるが、検査の実施主体、頻度、場所については相手側と交渉中であり、現時点では未定である。

**(19) 工事の要望について**

要望) 柴田地区、昭和地区は既存の工場により迷惑している。立派なものをつくっていただきたい。

回答) ご要望に応えられるようしていく。

**4. 説明会に使用した資料等**

- ・参加者に「環境影響評価準備書のあらまし」を配布しました。
- ・パワーポイントで作成した事業計画および環境影響評価準備書の概要を、前面のスクリーンに映し出して説明しました。
- ・会場内において、環境影響評価準備書及び要約書をご覧いただけるよう、閲覧場所を設けました。

## 5. 会場写真



以 上